以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　時間が来ました。簡潔にお願いします。

○議員（６番　吉見　優子君）　金石川の水の流れですけども、私は久田道なんですが、女性部のほうに入っているんですが、そこでＥＭ菌だんごをつくりまして、金石川の水の流れを浄化しようねということで、毎月ずっとだんごを投下していたんですよ。４月ごろからやめました。水の流れもないし、草も生えているからということでしておりますので、その点もよろしくお願いいたします。

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　これで、吉見優子君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　暫時休憩します。再開を２時１０分からといたします。

午後１時52分休憩

午後２時07分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　皆さん、こんにちは。５番議員、会派つしまの小島徳重でございます。

通告に従い質問に入りますが、８月２０日に開催されました子ども議会での中学生の皆さんのはつらつとした議員ぶりに刺激を受けました。私の今回の質問も、総合計画のひとづくり、対馬市教育振興基本計画の主要施策に特化して、子どもたちに関わる、あるいは人を育てることについての質問を行いたいと思います。

一部、子ども議会での質問とかぶっている面もありますけども、生徒さん方の熱き思いを受けて、私も密度の高い一般質問にしたいと思います。理事者におかれましても、心のこもった実効性のある答弁をお願いいたします。

今回は、２項目６点についてお尋ねいたします。

１項目めは、対馬市総合計画の進行管理についてお尋ねします。

１点目、地元３高校への入学者数３００名を確保すること及び島外高校への流出率を平成３２年度末に１５％、３７年度末に１０％に抑えるとの目標が、総合計画の挑戦１、ひとづくりの主要施策に掲げられています。この施策を実現するための具体的な手だてについてお尋ねします。

２点目は、同じくひとづくりの主要施策の中に、学校給食への地元産の食材の提供拡大が掲げ

られています。今回は、特に水産物、農産物、ジビエの活用状況についてお尋ねをします。

２項目めは、本年３月末に教育振興基本計画が対馬市で作成されました。その目標達成についてお尋ねします。

１点目、全国学力・学習状況調査において、対馬の児童生徒の正答率を全国の平均より高くするとの目標設定がなされています。目標を達成するための具体的な施策についてお尋ねします。

２点目、不登校児童生徒を平成３２年度末にゼロにするとの目標設定がなされています。このことについても、具体的な施策についてお尋ねをします。

３点目は、学校トイレの洋式化の整備率が平成３２年度末に３０％と設定されていますが、全国的な平均的な数字とか、昨今の全国的なトイレの洋式化の中で、対馬市ももう少しというか、もっと高い目標設定し、子どもたちに衛生的で快適な学校生活を保障してやるべきだと考えます。教育長の見解を求めます。

４点目は、文化財の保護・活用のために、専門職員の増員の必要性が振興計画の中で取り上げられています。文化財を保護するとともに、観光資源として活用し、対馬に人を呼び込むためにも専門職員の増員が必要と考えます。教育長の見解を求めます。

以上、２項目６点について、多項目にわたっていますけど、簡潔明瞭な御答弁をお願いします。細部については、必要に応じて一問一答でお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　小島議員の質問にお答えいたします。

対馬市の総合計画の進行管理についてということでございます。

その中で、地元３高校への入学者数３００名の確保という関係での質問がございましたけれども、その前に関連がございますので、進行管理について若干触れさせていただきます。

第２次対馬市総合計画を着実に実行するためには、施策の実施状況を点検・分析し、必要な改善に取り組むことが必要であります。具体的には、毎年度末に各担当課が各施策の実施状況や達成度を分析し、評価を行うほか、５年後、１０年後にはそれぞれ掲げております主要施策の数値目標の達成状況を確認し、総合計画審議会や対馬市市議会等に意見を求めることとしております。

このように、自己診断による評価や客観的な意見を踏まえ、成果確認を行い、５年後には本計画の実現に向け軌道修正を行いながら、１０年後には、本市の現況整理に加えて、市民の満足度や市民を対象とした意識調査を実施し、次期総合計画の策定につなげてまいりたいというふうに考えているところでございます。

そこで、第１点目の高校の件ですけども、地元３高校への入学者数３００名の確保、島外高校への流出率の具体的な施策については、子ども夢づくり基金の継続、酒井豊育英資金貸付制度の

維持及び対馬っ子育英制度の設置を検討、研究しているところでございます。

これは、基金等の設置により、地元高校への進学者及び地元就職者への入学・就職祝い一時金の支給、大学、専門学校への進学に対する入学金及び学校生活費の支援、また大学卒業後の地元就職者への就職祝い一時金の支給などの支援を推進することで、島外流出人口の抑制とＵターン者の拡大を目指すという新たな制度でございます。

従前の貸付型ではなく、給付型としてその費用を試算いたしましたところ、４年間で約７億円が必要と見込まれ、現在のところ、この基金の原資の確保が最大の課題となっております。

将来に向けましては、多くの子供たちに支援が届くよう、現行の貸付制度の周知及び貸付条件の緩和とあわせて、地元就職者には償還金の一部を補助するというような制度の検討も進めてまいりたいと考えております。

また、こども対馬未来塾や島おこし実践塾を開催し、郷土愛の育成を積極的に行っていきたいというふうに考えておりますが、市内３高校の校長先生を中心に構成する高校魅力化推進懇話会におきまして、高校の魅力化を図るため、取り組むべき課題と、その解決に向けた政策の立案につなげてまいりたいと考えております。

次に、学校給食における地場産品、地産地消の推進につきましては、対馬の豊かな自然から生まれた心と体を大切にし、食を通じて健康で心豊かな人間性を育むを基本理念とした食育・地産地消推進計画に基づき、取り組んでいるところでございます。

農産物におきましては、施設野菜のアスパラガスにつきまして、使用割合が７０％を超すなど安定しておりますが、その他露地野菜につきましては、天候不順や病気などの影響もあり、安定的とは言えないまでも、全体的には横ばい、もしくは微減の状態で推移しております。

特に、対馬しいたけにつきましては、目標より１割程度、使用割合が減少いたしましたが、これはシイタケ価格の持ち直しに伴い、使用割合が減少したものと考えております。

水産物につきましては、海藻類、魚類ともに目標値を超え、安定的な利用ができております。

また、イノシシ、鹿肉のジビエにつきましては、昨年より全ての学校給食で活用をしていただいておりますが、１８０キログラムの利用実績となっております。本年７月に、学校給食調理場の栄養士を対象に調理研修会を開催し、シェフをお招きして、ジビエの調理法の指導やメニューを紹介してもらうなどの取り組みを行っております。

ジビエにおきましては、まだまだ認知度も低く、身近な食材と言えませんので、今後も栄養士等と意見を交換しながら、有効活用に向けた取り組みを検討してまいりたいと考えております。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　小島議員の教育振興基本計画関連の御質問にお答えをいたします。

まず、１点目の国が実施している全国学力・学習状況調査において、全国正答率を上回るため

の具体的な施策に関する御質問についてですが、このことにつきましては、まず対馬市の学力の現状、教職員に対する研修の現状、今後の見通しの３点によりお答えをしたいと思います。

まず、対馬市の学力調査の現状を御説明いたします。

平成２７年度から今年度までの３カ年間の全国との平均正答率の差の推移で御説明いたしますと、小学校、中学校ともに全国との差が縮まり、今年度につきましては、小学校の国語Ａと算数Ａが全国平均を上回っております。

また、そのほかの科目及び中学校の全科目につきましても、全国との差が１ポイント前後になるなど、改善が見られております。各学校での指導の成果があらわれたものと捉えております。

次に、教職員に対する研修の現状でございますが、私は常々、校長先生や他の教職員に対して、教師の力以上に子どもは伸びないということを申し上げ、教師の授業力、ひいては教師力の向上に力を入れるようお願いをしてまいりました。

市教委といたしましても、管理職や各種主任を対象とした研修はもとより、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修、教科指導法改善研修等における研究事業や授業研究を通して、具体的な教科指導力の向上を図っているところでございます。

また、複式指導法研修会、特別支援教育に係る研修会等、対馬市の課題に対応した研修会を実施しております。

さらに、研究指定校にＩＣＴの活用を意図した研究を委嘱するなど、これからの時代の指導のあり方を模索する取り組みも行っております。

これらの取り組みを総合的に推進しながら、対馬の子どもたちの学力を一層向上させていきたいと考えております。

今後の見通しについてでございますが、本調査対象である児童生徒は毎年変わります。よって、その結果が年度によって変化することは当然のことであります。今回は、各学校の努力により、比較的よい結果を得ることができましたが、このことに満足することなく、今後、文部科学省や県教委から出される学力向上に向けての具体的方策等を参考にしながら、児童生徒一人一人の学力をさらに伸ばすよう、各学校に対し丁寧で粘り強い指導を行うようにしてまいります。

次に、２点目の不登校児童生徒についてですが、対馬市の発足以来、小中学校の不登校児童生徒の割合が高いことは課題となっており、教育委員会としましてもさまざまな施策を講じてきました。その結果、不登校児童生徒数は一時半減いたしましたが、現在は再び増加に転じるなど、大きな課題となっております。

このような認識のもと、教育委員会といたしましては、学校に対して、児童生徒の理解を深めるとともに、個々に応じた指導を行うことやチームで対応すること、また小中学校連携による中１ギャップ解消への取り組みなどを促してまいりました。

しかし、児童生徒の抱える心理的・情緒的な課題、家庭的問題等も年々複雑化しており、学校だけでの対応では難しい事例が増えております。

そこで、各学校では、外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員の活用を図っております。これにより、専門的な視点に立った相談活動、指導、支援の方向性の検討が行われるなど、成果があらわれてきているところです。

一方、不登校となっている児童生徒の学校復帰の手だてとして、適応指導教室支援事業として、フリースペースみちしるべの運営を支援しております。平成２８年度は年間５３回の教室を開催されており、不登校児童生徒への学校復帰へ向けた大切な集いの場となっております。

このような取り組みを継続してきましたが、不登校の大幅な減少には至っていないため、今後、さまざまな施策を講じる必要があると考えております。

まずは、経過や現状の把握、指導の効果も含めた不登校児童生徒のきめ細やかな実態調査と、公私を超えた情報の共有が必要と考えます。

また、不登校を正しく理解するための各種研修会の実施、不登校児童生徒在籍校を対象とした事例研究会などを実施して、不登校児童生徒に対する教職員の実践的な資質・能力を高めてまいります。

また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した研修会や、各学校への関わりを可能とするための指導・支援を通して、学校外の人材や機関との連携のさらなる充実に努め、不登校児童生徒を皆無にしたいと存じます。

３点目の学校トイレの洋式化につきましては、平成２８年第３回定例会及び第４回定例会で、ほかの議員さんからも御質問をいただいたところですが、今回は教育振興基本計画の目標設定値が低いのではないかとの御質問であります。

教育振興基本計画は、本年３月に策定し、議員の皆様にもお配りさせていただいたところです。この中で、平成２８年度の学校トイレの洋式化率を１８．１％とし、平成３２年度に向けて３０％としているところですが、目標の設定に当たりましては、長崎県下の学校トイレの洋式化率の平均が３０．１％であることから、これを平成３２年度に３０％と設定したところでございます。

教育委員会といたしましては、学校の全てのトイレを洋式化することは考えておりませんが、学校からの要望、予算との兼ね合い等を考慮し、今後もトイレの洋式化を進めていく計画を立てているところでございます。

４点目の文化財の保護・活用のために、専門職員の増加が必要ではないかとの御質問でありますが、教育振興基本計画における目標達成に向け、現在の体制で大丈夫なのかという御心配からの御質問ではなかろうかと思っております。

合併後、対馬市教育委員会では、平成１８年５月１日に文化財課を設置し、以来、市内文化財の適切な保存と活用に努めてきているところであります。職員は、発足当時、課長以下４名から現在は５名体制となっており、そのうち３名が学芸員の資格を持った職員であります。このほかにも、市長部局ではありますが、観光交流商工部に学芸員が２名と、学芸員の資格を持った島おこし協働隊員が１名配置されております。

文化財課においては、職員の数と事務量とが必ずしもバランスがとれているとは言いがたく、恒常的に時間外勤務や振りかえ勤務が続いている状況であります。その分、業務を進める上において、文化財保護審議委員会委員の方々や文化財巡視員等の協力、郷土館、資料館の管理に関しましては、地区生涯学習センター職員の応援をお願いしているところであります。

この件につきましては、文化庁からも、文化財の数の多さや対馬市の広さから、体制強化を再三指導されており、教育委員会としましてもその必要性を認識しているところであります。

ただ、人口減少が続く中、対馬市職員の適正配置や部局間のバランスも考慮した上での検討が必要ではないかと思っております。

新しい博物館の運営管理とも大いに関係がある事案でありますので、このことも含め、市長部局と協議をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　まず、１点目の地元高校への入学者数、それから島外の流出率の件についてお尋ねをしたいと思います。

今、市長のほうから、手だては一応聞いたんですが、現状について、入学者と、それから島外流出者数、市長は多分把握してあると思いますが、把握してございますかね。手元に数字がなかったら、私が申し上げます。

手元に数字がないということですから、申し上げたいと思いますけども、一応２８年度、２９年の３月卒業生は、対馬高校と、それから豊玉、上対馬高校を入れて、島内進学者数が１９４、島外へ出た者の数が島外流出者が９９名、パーセントにしますと３３．８％です。これは、今までの地元と島外への率からいったら、過去４年間の平均が２７％でした。それが一気に今年は上がったんですよ。

それで、危惧していたところ、次年度、今の中３の卒業生の進路希望調査が７月にあったんです。この数字を見て、また私はびっくりしたんですよ。この数字は驚くべき数なんですけども、中学３年生２６９名のうち、対馬の中にとどまるという人は１６２名だけですね。１０７名が島外に出る予定になっています。もし、このまま島外に出ますと、何と３９．８％、約５人に２人は島外に出るという実態があります。

この数字をもとに考えますと、これ教育長さんも退職校長会の便りに載せてありましたけど、やはり危惧すべき状態だろうと思うんですよ。このことについて、市長は認識、どういうふうに持たれましたですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この件につきましては、先月、行われました子ども議会のほうでも指摘を受けたような次第でございますけども、例えば私がそのとき聞いたのが、佐須の中学校は約半数ほどが島外の学校に出ているというようなことでございました。

そのときの原因といたしまして、確かに進学等の関係で、本土の進学校に行くという子もいるということでございましたけども、スポーツで行くといったような子どもも最近は多いという話をそのときに聞いたような次第でございます。

そしてまた、今、小島議員さんから聞きましたけども、対馬全体でも３３．８％が島外の学校に進学しているということは、私も今聞きまして、本当に深刻な状況であるというふうに聞いて思いました。

そういうことで、また近いうちにあります３高校の魅力化協議会のほうでも、この課題を協議してまいりたいというふうに感じているところでございます。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　まさに、今、市長がおっしゃったように、やはり驚くべき数字になってくると。この状態がもし三十数％とか４０％という数字がこのまま続きますと、地元高校の空洞化ということになっていって、特に豊玉とか上対馬高校の場合は存続そのものが危うくなるという現実があります。

そして、今、島外に出る理由として、市長がおっしゃったように、大きな理由として２つあると思うんですよ。１つは、言うように進学校、より高いレベルに行ったほうがいいんじゃないかというのと、スポーツに秀でた子どもたちが島外の高校に進学するという状況、この２つがあると思うんです。

それで、高校の科別の進学先を教育委員会からもらった資料で見ますと、今年度の９９名出た中で、普通科に６４名出ています。そして、商業科に３名、これは対馬の地元に科がありながら、これだけの数が出るわけですよね。いわゆる看護とか建設機械、電気とか、こういう実業関係は科がないから、流出はやむを得ないところがあるかとは思うんですが、普通科が６４名も出るという実態、商業科と合わせて６７名も出るという実態は放置できないと思うんです。

それで、市として、高校の打つべき手というのは、今、市長がおっしゃったように、高校との連絡協議会で十分また詰めていただきたいと思うんですが、市としても何らかの行政としてこのまま放置しないで、さらなる支援をしていく必要があるんじゃないかと思って、私はこの質問を

上げたんです。

私が言った具体的なことというのは、今まで言った奨学金とか、今、祝い金のこともありますけど、この現状を見ると、さらに何か手を打たないといけないと思うんですよ。市長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、具体的にこういうことをしたいということは申し述べることはできませんけども、このことを危機といたしまして、先ほども申しましたように、３高校の校長先生を初め関係者の皆さんと協議をしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　私なりに感じたことを申し上げますので、市長だけじゃなくて、いろんな教育委員会も一緒になって、できることを考えていただきたいと思うんですよ。

それで、進路の確保という点では、対馬高校さん、それぞれ３高校、それなりの学校規模とか生徒さんの能力に応じて手だてを打ってあるわけですから、このことを対馬市として行政が何ができるかといったら、対馬におっても進学できますよという体制をバックアップするためには、高校の先生方のお話をよく聞いていただくとともに、進学するための模擬試験を１年生で５回、３年生では１１回受けていますよね。

このような模擬試験を受けるに当たっても、結構保護者の負担が大きいですよね。こういうことに対する補助とか、そして島外に出ますと下宿代とかかかって、生活費がかかるわけですから、島内に残ったらこれだけ割安になりますよということで、経済的な意味からいったら、対馬高校の寮費を負担してやると、食費はのけてですよ、食費はどこにおっても食べますから、家庭の負担でいいと思うんですよ。寮費とか下宿代とか、島内で残って頑張る人には、それなりの何かバックアップしてやっていいんじゃないかと、そういうふうに感じるんですよ。

それから、スポーツ面で抜ける子どもたちが結構多い。ところが、地元に残っても頑張れるんだということは、今年度、陸上競技でインターハイに早田君と河本君が行きましたね。昨年は上高の糸瀬さんですか、これは入賞しました、インターハイで。やれるんだということで、それなりの今度はバックアップが欲しいと。

ただ、今、夢基金で大会補助していますけど、これ以外にも補助の仕方が行政としてあるんじゃないかと。対馬に残っても、市が応援しますよということで、例えば試合は夢基金で出るけれども、練習試合は出ない、それからどこか島外で強豪高校と合宿をしようといったときは、これは出ないと、そういうことにも補助してやるぐらいの気持ちがあると、島外に出ようとしている子どもたちも保護者もとどまるんじゃないかなということを感じています、個人的には。そのあたりも、ぜひ検討していただけたらなと思っています。

そして、例えば野球を例にとっても、毎年、対馬から出た子どもたちが強豪校のレギュラーになったりして、甲子園に毎年、対馬の関連の子どもたちも出ていますね。ソフトボールでも、全国規模の全日本の代表になった子どもたちもいます。

しかし、この子どもたちが全部対馬に残ればということで、甲子園を対馬から目指すプロジェクトとか、そういうのをいろんな関係団体と一緒になって考えるというのも、教育委員会や市長部局で何か夢を子どもたちに与えていただきたいということで、一応私なりの感想を述べておきます。

高校の校長先生方と市長の間のそういう細かいことをよく詰めていただければ、何か知恵が出てくると思います。

それから、２番目の学校給食の地元産品の件は、市長がおっしゃったように、確かにスタートした時点から見ると伸びてきました。平成２０年度には、食育推進会議で話題になったときは、水産物関係は対馬産は、ほぼゼロでした。それが、市長にお渡しした資料の中にもあったと思いますけども、今、結構伸びてきました。

どれだけ伸びているかということは資料を見ていただいたらわかりますけども、平成２１年度２６％から伸びて、そして２４年度には５２％、２４年、２５年で５０から６０まで行きました。今、これがあるところで止まってしまった状態ですね。止まってしまった状態をもう少しアップできるんじゃないかなということで、僕は今ここに資料を出したんです。

一番わかりやすい例でいきますと、対馬産の海藻と、それからここに魚介類を出しています。まだ、伸びる余地があるというのは、ここに出していますけども、例えば給食センターによってすごく差があるということです。例えば、海藻類は１００％のところもあれば３３％のところもあると、魚介類は９０％のところもあれば３７．２％のところもあると、この格差を埋めていけば、海藻については、ほぼ９０ぐらい、それから水産物については７０％から８０％近くまで行く可能性があるんですよ。

このことについては、給食センター調理場の問題が絡んでくると思うんです。このことについては、教育委員会はどういうふうにお考えか、教育委員会のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　教育委員会としましても、栄養教諭の研修会等におきましても、地元産品の使用をということでお願いをしておりますので、使っていない、使う量が少ないセンターにおきましては、いろんな条件が絡んでいると思います。そこらあたりを今後また市長部局とも相談をしながら、そういう条件をクリアしていけたらなというふうには考えております。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　今、教育長からもお答えをいただいたように、確かに給食セン

ターのある立地条件によって、水産物が手に入りにくいところとか、それから農産品が入りにくいところとか、条件はちょっと違うと思うんです。しかし、私が見る限りでは、栄養教諭、栄養士さん、この方の意識の問題が結構あるというふうに感じています。だから、そのあたりは教育委員会の御指導の範疇だろうと思うんですよ。

もう一つ、市長部局のほうに考えていただきたいのは、ジビエの問題もそうですけど、流通の問題にネックがあると、これは前市長とも議会で一般質問したときに出てきたんですけど、この整備が必要だと思うんですよ。

だから、熱心な給食センター、そして条件のいいところは使っているけども、そうじゃないところは差があるということで、そのあたりについて、市長、いわゆる供給システム、ネットワークとかということについて、市のほうでは何かお考えないですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　実は、私も、きょう、小島議員さんからこの資料を見せられて、何でこんなふうに各給食センターで差があるのかと思って、これはびっくりしております。

今、おっしゃられるように、これはそこの栄養士さんの意識の問題なのか、果たしてほかに原因等があるのか、これはまた関係者、そしてまた関係部署と分析をしてみんばいかんなという気持ちでおりますけども、要は、今申しましたように、ここら辺の分析をして、きちっと今後必要なことがあれば、それに向けて対処してまいりたいというふうに思っておりますが、ネットワーク関係がどういうふうに組み立てられるものか、そこら辺のまた研究もしていきたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　今のことと関連しまして、ネットワークとともに保存施設、これは野菜も農産物も、それから魚介類もですけども、そのシステムが対馬の場合弱いから、どうしても条件に差が出てくるというのがあります。

だから、市長が公約に掲げておられた配送センター、これに伴う保存・保管施設、こういうことの整備を早急に進めていただければ、これは一般の流通物と一緒で、学校給食についてももっと活用できると思います。

それから、ジビエについても、すごくこれも差があります。今、使い始めたばかりですけど、これも量として３キログラムしか使わなかったところと７０キロ使ったところ、それから回数でいったら、１回しか使っていないところと５回使ったところ、差があります。このことは、なお一層、供給体制にも課題があると思っています。

それから、価格等の問題にも課題があると思っています。時間がないから、きょうはそのことは指摘だけで一応しておきますけど、このことも増やそうと思うならば、そのことを解決しない

と、これ以上は増えていかないんじゃないかなというふうに思っています。

それから次、学力の問題について触れたいと思います。

このことについては、教育長が今答弁があったように、年によって違いますので、その年の５年生が県、それから６年生が国、それから中学生は中２が県、中３が国とあります。だから、でこぼこというのは承知しています。

ただ、全体としては、このテストが始まったころは、対馬市はかなり低かったですよね。私も現場にいたから、よくわかっているんですよ。全国平均より１０ポイント少ない差があった教科とか、学校とかあったんですよね。それがずっと克服されてきて、結構今は近づいてきたと。

今までは、市教委は県平均を目指すということになっていたんですよね。ところが、今年はここまでレベルアップしようと、全国ということを言われた。そこのところはどういうふうな狙いであって、全国という目標に変えられたのか、どうですか。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　他意はありません。私個人としては、教育長になったときに、校長、教頭にお願いをしたのは、県平均をまず上回ろうやということをお願いをしました。

ただ、教育振興基本計画をつくるときに、担当が全国としていると思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　私は、このことをすごく評価しているんですよ。対馬市は今まで、子どもたちの現状からしたら、県というレベルで何か設定していたんだけど、全国に持っていったと言われたことは、近づいてきたから自信を持って、担当レベルでそう設定されたというのは大いに賞賛すべきことだと思うし、それをぜひ実現していただきたいわけですよ。だから、あえて私はここで取り上げたんですよ。

それで、教育委員会に申し上げたいのは、今、対馬市は学力調査の件を公表していないですよね。これ公表して、保護者、家庭、地域にも理解を求めたほうが、よりよく子どもたちの勉学、それから生活面も調査に入っていますから、そういうことにレベルアップはするんじゃないかなと思いますが、公開することについてはどうですか。郡市の数字ですよ、対馬市の数字、学校別じゃないです。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　学力調査の結果を公表する必要はないと、私は考えているわけですけれども、大体学力調査の目的というものが、当初の目的が公表は全く考えられておらず、学力調査の結果をもとにして、子どもたちの課題であるとか、今後、取り組むべき方向性であるとかを各学校で方策を練りながら、子どもたちの学力向上につなげていくということが当初の狙いでありました。

いつからか、こういうふうな説明責任ということが公になってきまして、結果を公表すると、したほうがいいと、すべきだという、そういうふうな首長さんも全国的にあらわれてきまして、今、公表する流れもありますけれども、そういう学校とか地域の序列化であるとか、過度の競争につながっていく危険性もありますので、公表は考えておりません。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　私が申し上げているのは、学校別は公表する必要はないと思います。これは全国的な流れですから、だから郡市別の数値は既に新聞紙上等にも出ていますよね。長崎県の調査については新聞に出ています。その数値は、今、市長にもお渡しをしていたとおりですよね。それを見ると、小中全テストの中で、対馬市が今年度の今の５年生は低いということがわかりました。

なぜ、これを申し上げるかというと、学校は一生懸命指導しても、工夫しても、子どもたちの学習というのは学校だけでは成就しないという、完結しないというところがあると思うんですよ。これは教育長もよく御存じだと思うんです。そうすると、当然、家庭、地域の協力を得ないといけないと思うんです。

そういう意味で、ここに教育長にもお渡しをしていましたけども、全国の学力調査で、全教科で全国一を上げた秋田県の例が挙げてあります。これは、秋田の子どもはなぜ塾に行かずに成績がいいかと、お金をかけずに家庭で実践、学力日本一の教育というこれ新書版ですけど、これを見ていただくと、いかに家庭の協力、地域の協力がないと、学力は上がらないかということが指摘してあります。

秋田県は、かつては全国下位県だったんですね。ところが、これ知事がかわってから、あるときからぐっと学力を子どもたちにつけてやろうじゃないかということで取り組んだ結果が、この小さな冊子に書かれています。

これ私も読んでみて、大したこと書いていないんですよね。大したことを書いていないと言ったら失礼になるけど、特別なことじゃないんです。それは何かというと、対馬市が出してある対馬っ子の家庭教育１０カ条というのがありますよね。これは私のうちに六、七年前から張ってあったやつを私もきょう持ってきたんですけど、私のうちは壁に張ってあるだけで、子どもたちや親に定着したかどうかはわかりませんけど、家庭に壁に張ったこれを見たら、まさに秋田県がやったことを対馬市も打ち出してあるわけです。これを徹底することが大事だと思います。

それで、ぜひ、そのためには対馬市の子どもたちの現状はどうなんですよということを家庭に知らせるべきだと、家庭というか、対馬全体に知らせるべきだと思うんですよ。今、そういう方向でとおっしゃったから、ぜひそういう取り組み、今、県下市町村で残っているのは対馬を入れて５ですよね。小値賀と東彼３町と対馬だけです。市で公表していないのは対馬だけですね。国

からは、手元に来ていますよね、資料はね。ぜひ、それ出していかれたらどうですか。

そして、それを知らせるために、今年度、県教委がチラシを出しましたよね。教育長は御存じですか、各家庭へ長崎県の子どもたちの実態を知らせますというのを。それを県版が出たとき、私は対馬版も出すべきだったと思うんですよ。長崎県もこういう取り組み、対馬市も実態がこうだから、こうすべきで、こうしたいということを出すべきだったと思うんですよ。今、そのお話を聞かれて、どうですか。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　県版でいいのかなというふうには思っているんですよね。先ほど言われた秋田県等の学力のことも説明を受けましたけれども、以前から私たちは学校の１時間の授業を大切にすることと、それから家庭学習の習慣化、これは各学校で取り組んでいると思うんです。

だから、そういうことを徹底してやることによって、子どもたちの学力も向上してきているのではないかなというふうに捉えております。だから、各学校ごとに、そういう取り組みの充実を、校長を通じてお願いをしていっております。

県が方針を、特別のそういう取り組みの方向を出されたとしても、そのことを私たちがきちんとやれれば、そのことと私たちの今目指す方向が一緒だから、あえて違うものを対馬市でつくる必要はないと思いましたので、県の出したものを各学校で徹底をお願いをしているところです。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　このことについては、公表のこととあわせて、子どもの実態ということで、また機会を捉えながら周知してください。

それから、学校トイレの件は、長崎県の平均まで持っていこうと、長崎県は全国で何番かといったら、ワースト３ですよね。全国が既に四十数％から５０％に近づこうとして、国の方針もあって、今は全国的にトイレの改修が進んでいます。それで、一番低い長崎県の平均の３０に合わせて、それは子どもたちがかわいそうだと思うんです。

そして、一部和式、一部洋式で進めていったところは、後で全部ほとんど洋式に変えているそうです、全国の事例。なぜかというと、両方併用して残しても、和式のほうには誰も行かないそうです。ほとんどみんなが列をなして、洋式のほうに行くというのが現実だそうです。

そのあたりを踏まえていただいて、ぜひこれは予算を伴って、国が３分の１補助しますよね、交付しますよね。だから、ぜひ、長期的な目で見ても、全国的な狙いが全部洋式化で進んでいます。そのあたりは財政当局と、これこそ総合教育会議などで取り上げてください。

市長、必要かなというふうに、この前ちょっと言われて、僕は内心、比田勝市長らしくないなと思ったんです、本当。ぜひ、このあたりを子どもたちの現実、実態に伴ったところで、そういう話し合いをしてくださいよ。それはお願いしておきます。

それから、文化財の専門委員、これ私は市民の声も聞いたけど、これは振興計画にそう上げてあったから、私は上げさせていただいたんです。振興計画の中にそうありますので、ぜひこれも文化財の活用というのは、今、日本全国、どこの自治体も一生懸命になっていますよね。文化財に指定してくださいとか、それもまたはかどっていないのがありますよね。それから、いっぱい発掘調査も必要だと言っています。

だから、そういう意味でも、ぜひこれは採用部局、市長のほうの裁量になると思うんですけど、ぜひこのことも取り上げていただくようにお願いをして、終わりたいと思います。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

あすは定刻から、本日に引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会といたします。お疲れさまでございました。

午後２時58分散会